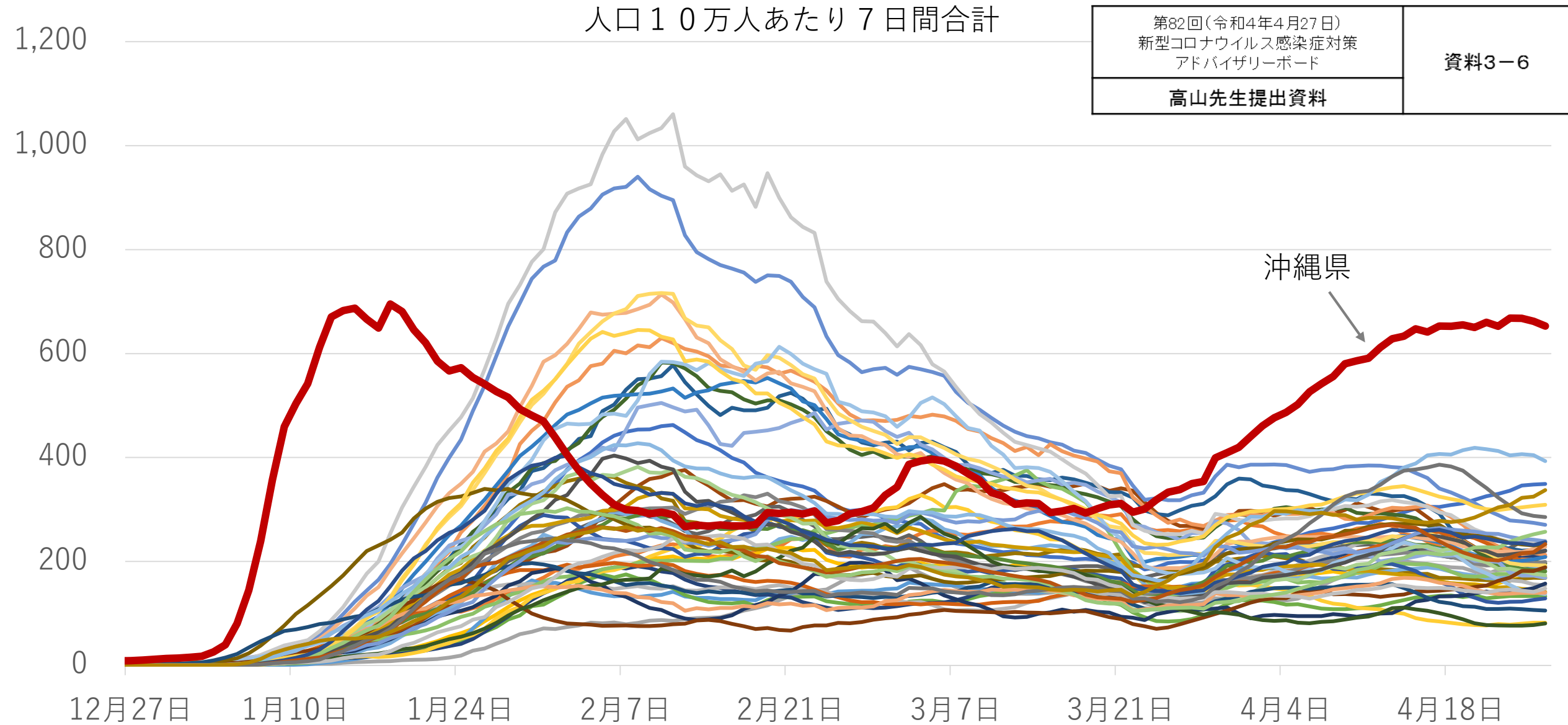


図1 都道府県別にみる新規陽性者数の推移 (人口10万人あたり7日間合計)



出典：NHK特設サイト「新型コロナウイルス」掲載の都道府県ごとの陽性者数をもとに作図

図2 保健所管区別に見る新規陽性者数の推移（沖縄県）

人口10万人あたり7日間合計

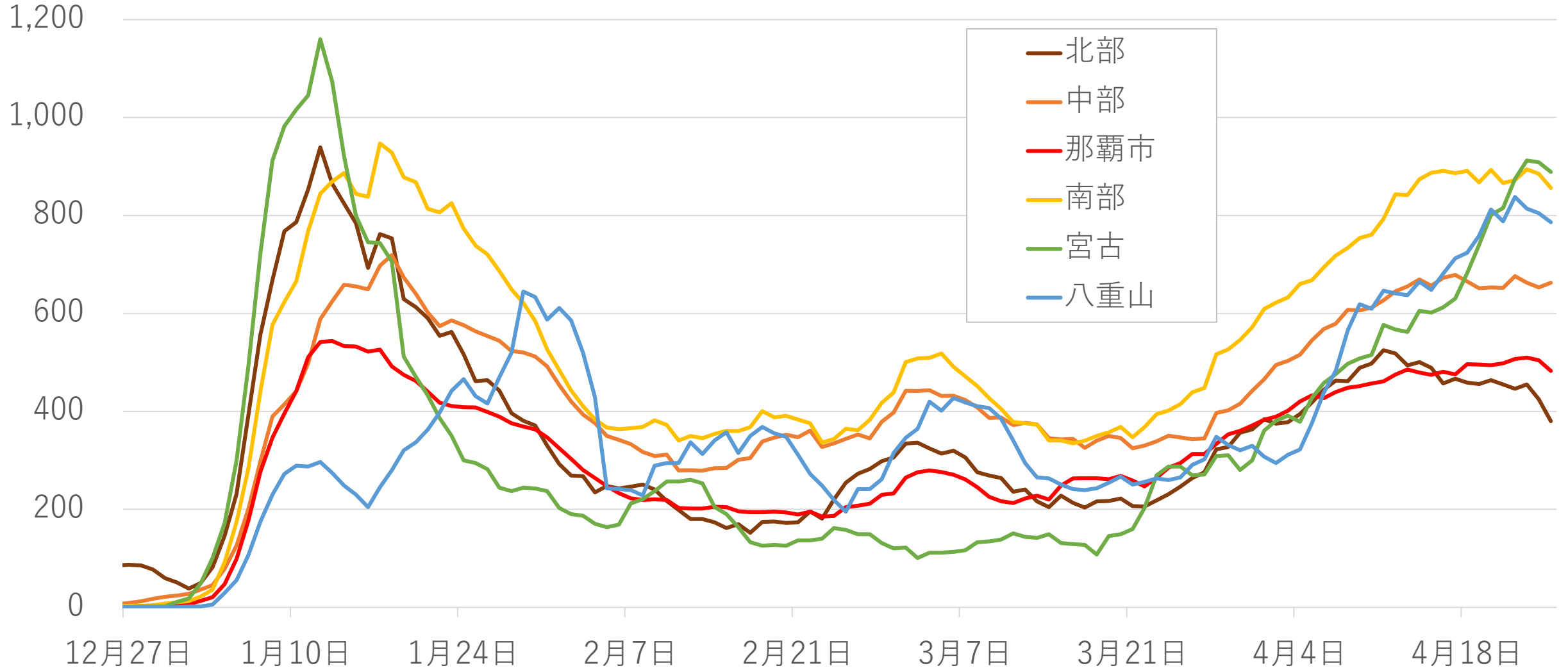
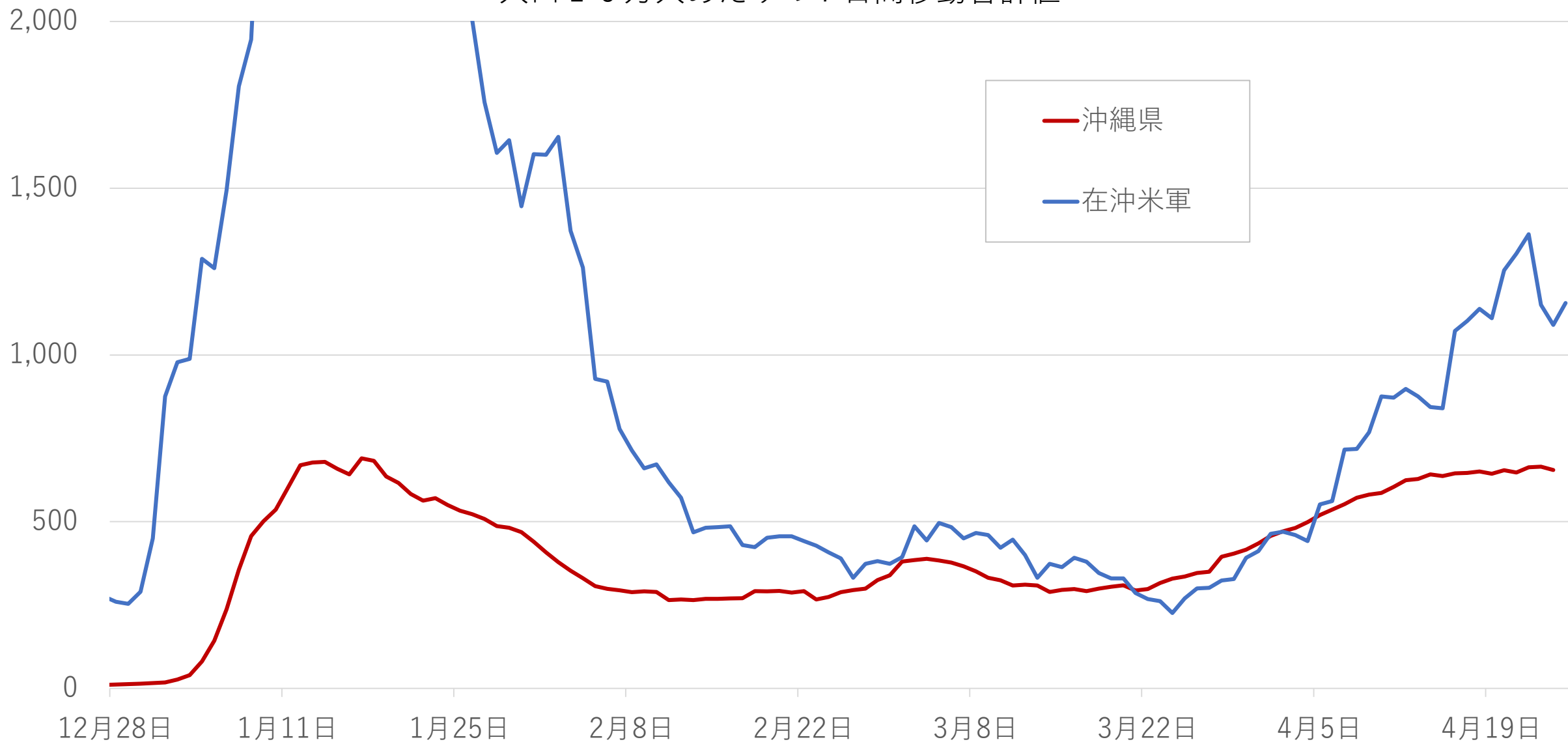


図3 在沖米軍と沖縄県における新規陽性者数の推移

人口10万人あたりの7日間移動合計値



データは在沖米軍公表および沖縄県報告に基づく

図4 性年齢階級別に見る陽性者数 (4月18日~24日)

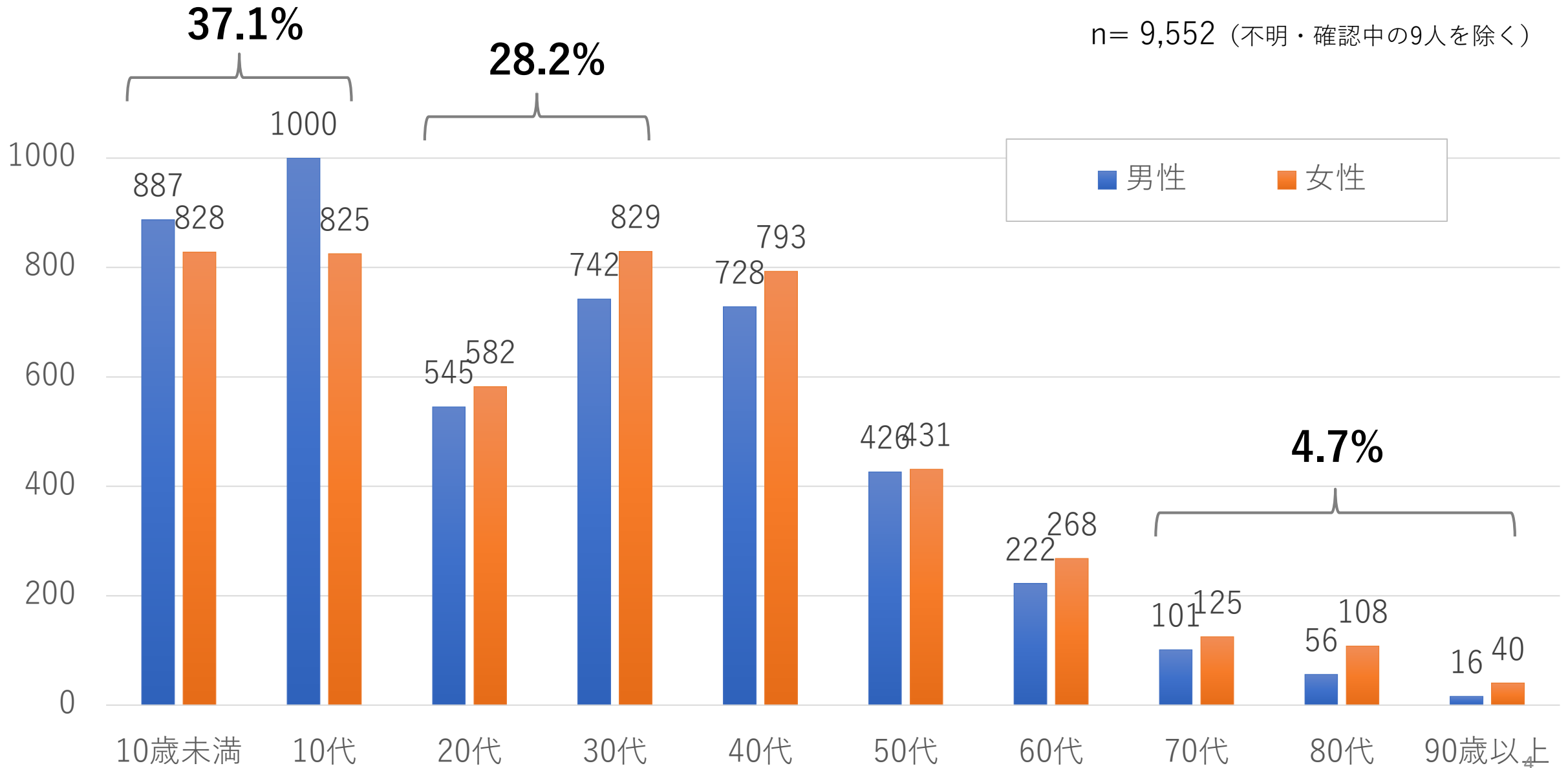
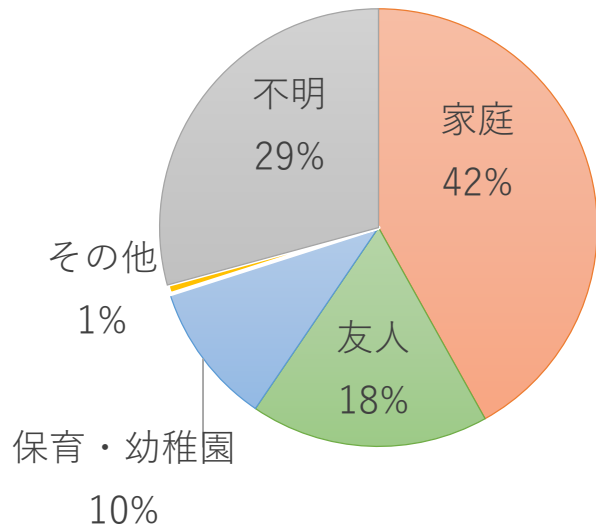


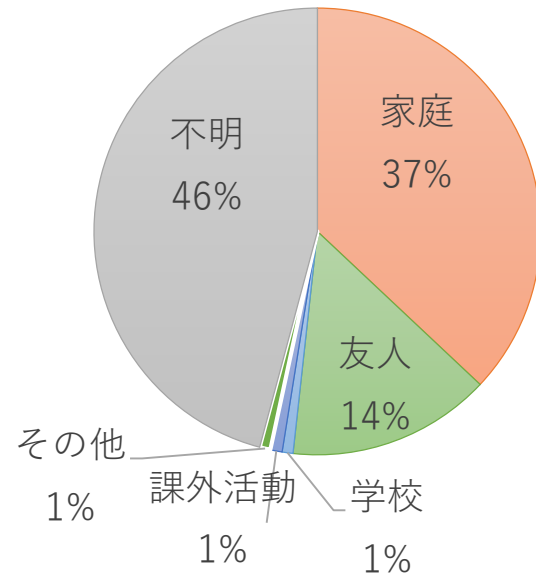
図5 幼年・若年層における推定感染経路（沖縄県）

保育・幼稚園児



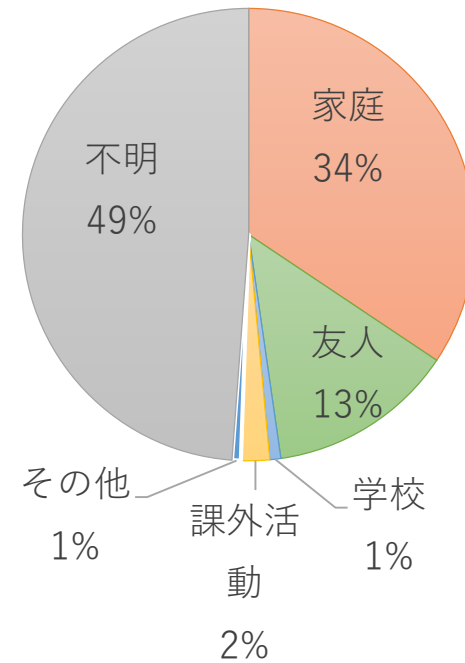
n=284

小学生



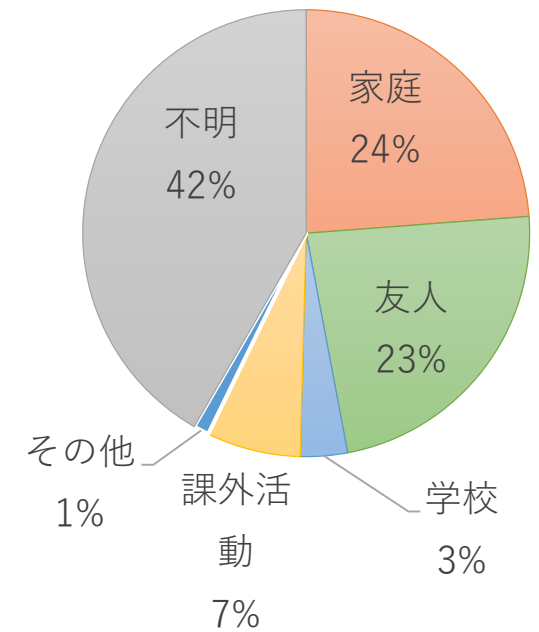
n=1,405

中学生



n=637

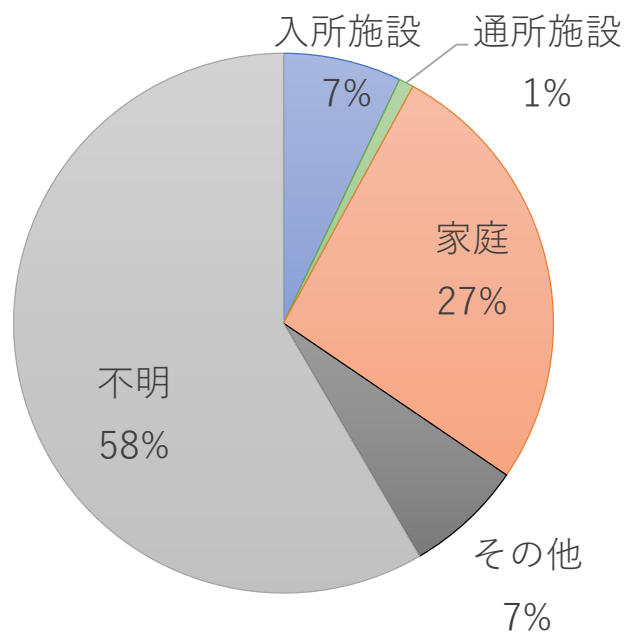
高校生



n=353

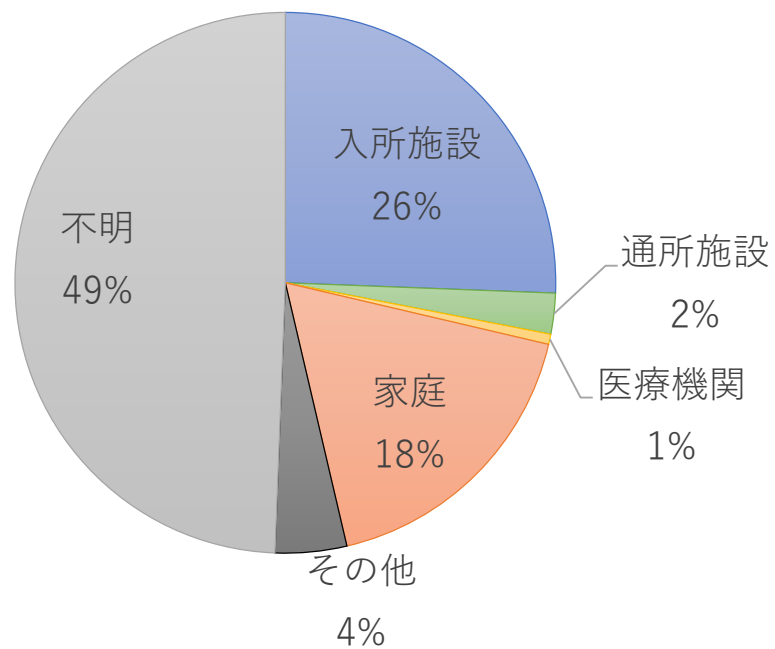
図6 高齢層における推定感染経路（沖縄県）

70代



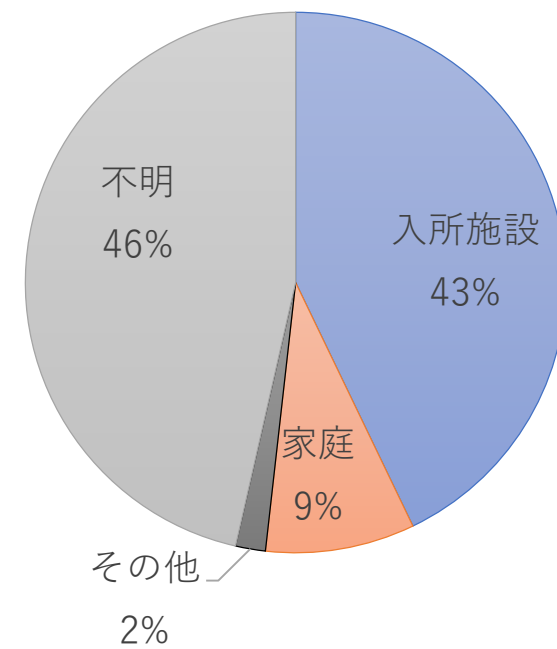
n=226

80代



n=164

90歳以上



n=56

図7 年齢階級別に見る新規陽性者数の推移 (人口10万人あたり7日間合計)

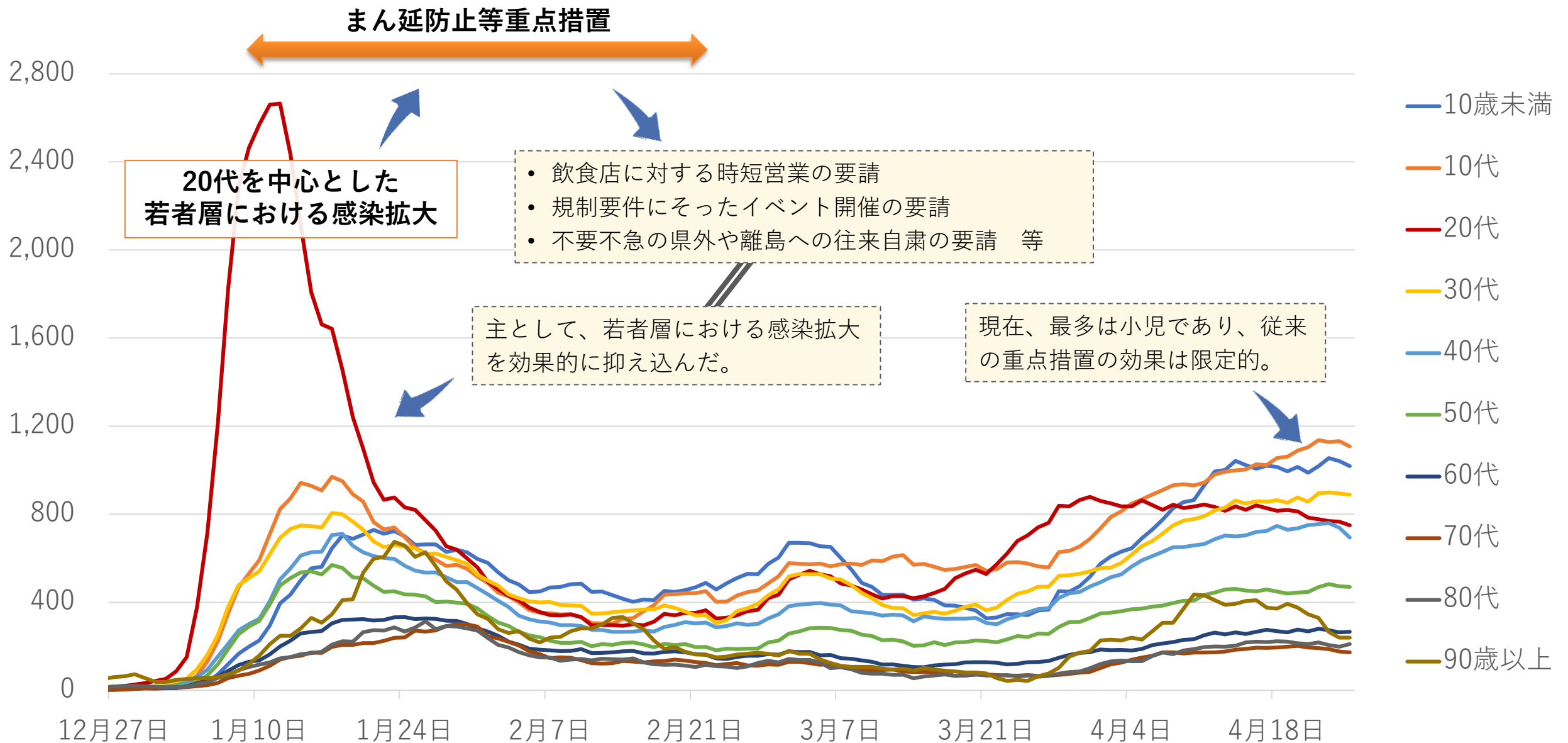


図8 重症度別入院患者数と施設療養者数の推移

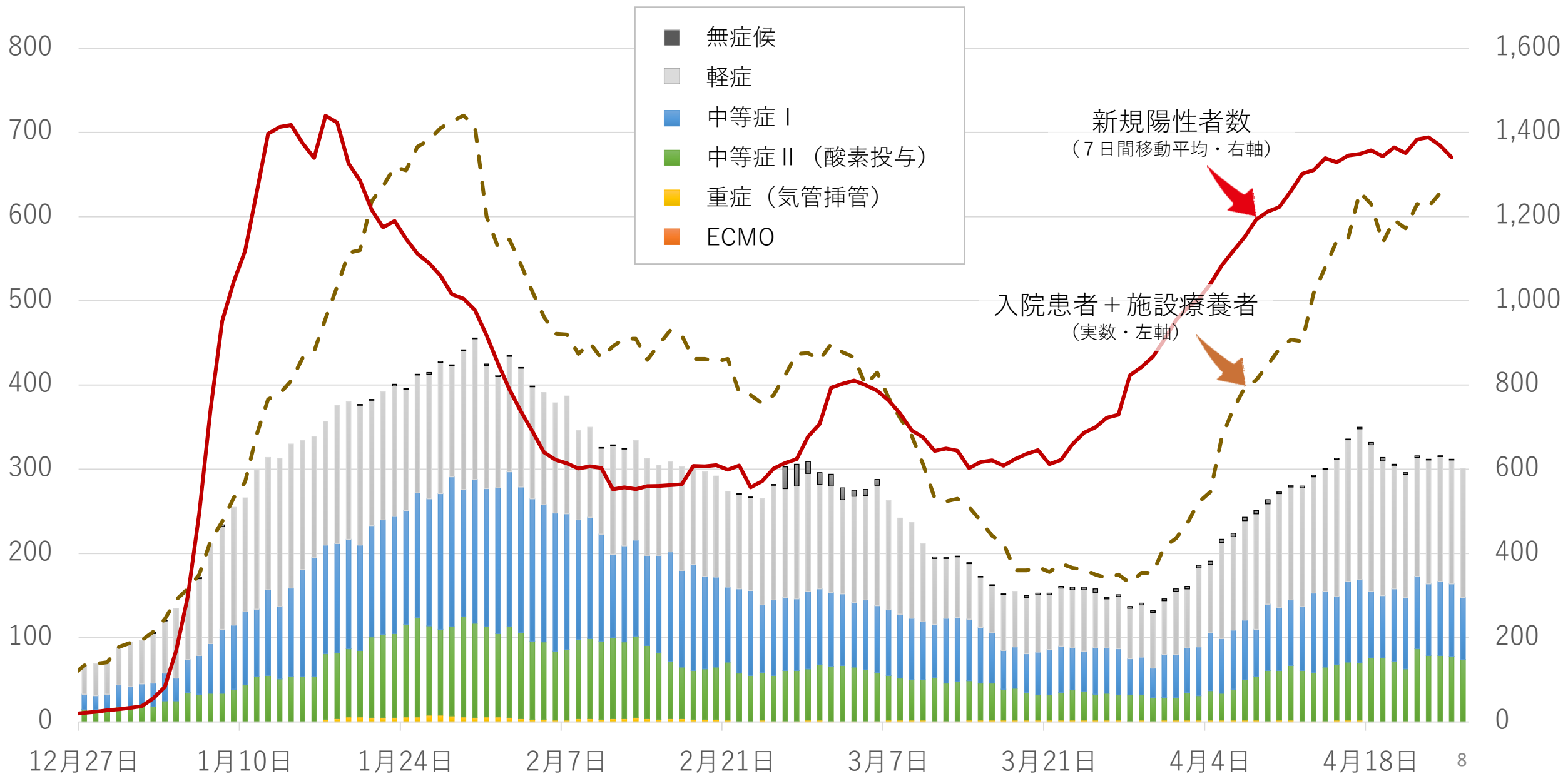
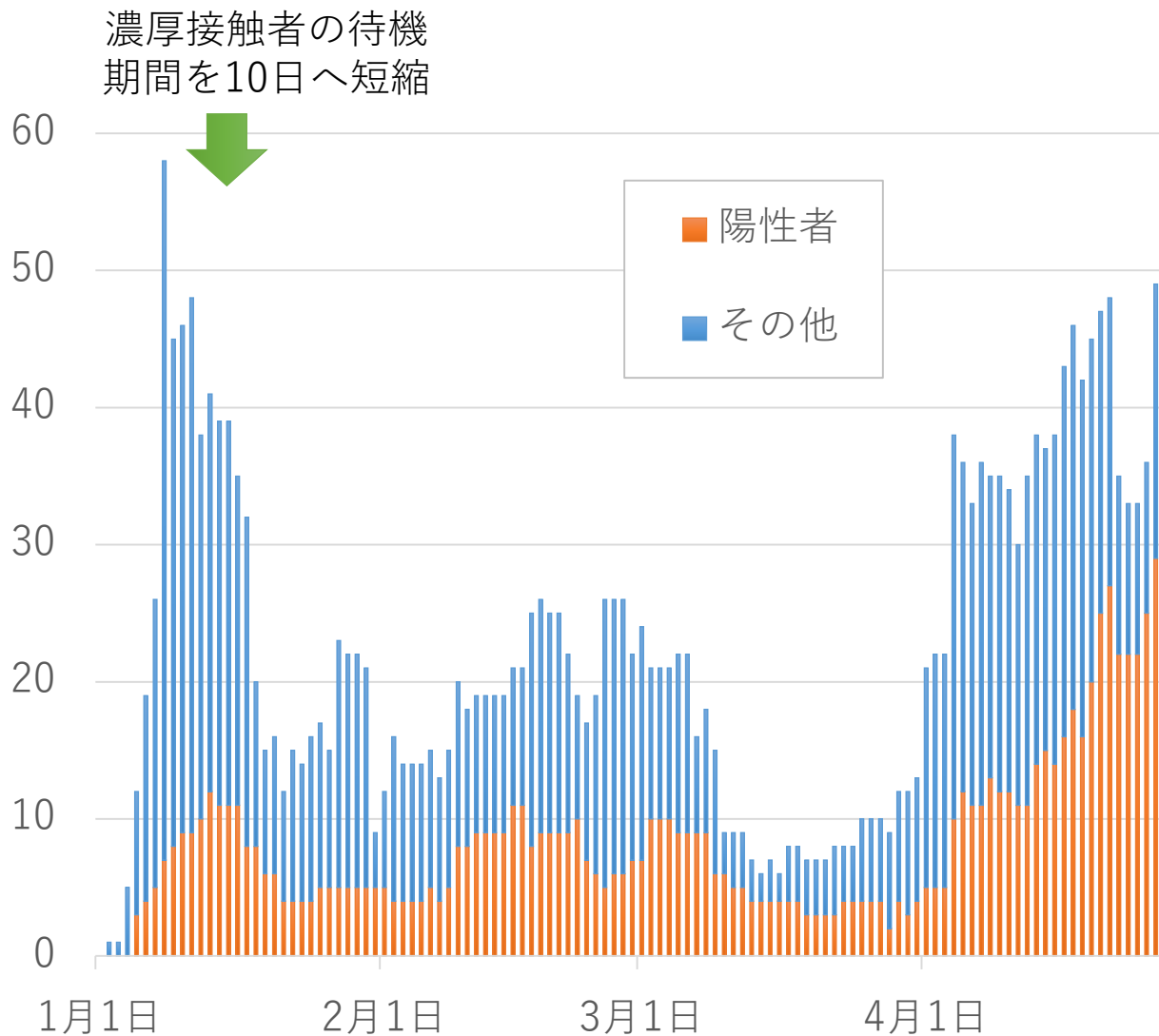


図9 重点医療機関における医師、看護師の休職数

医師



看護師

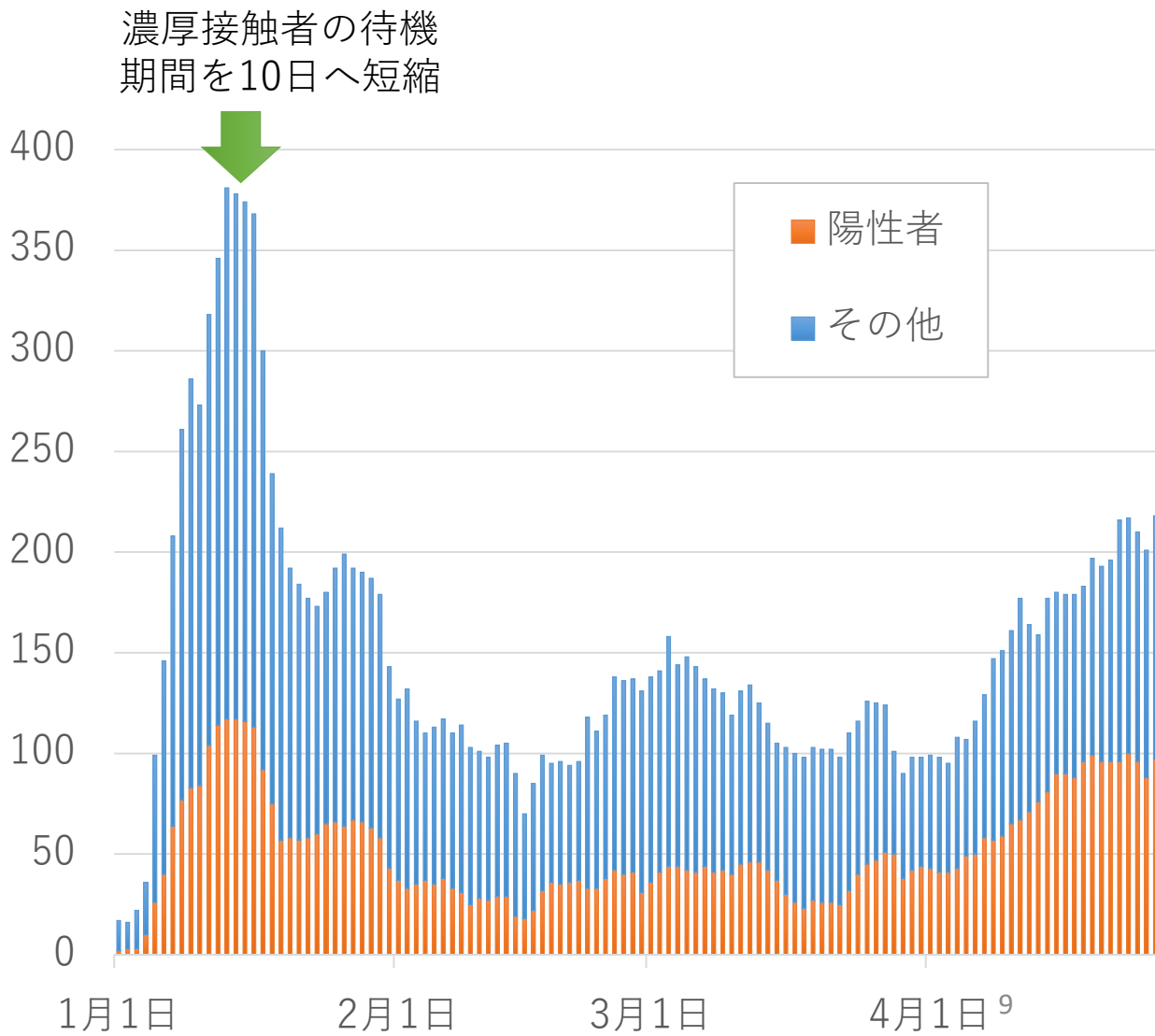


図10 周産期における新規陽性者数と感染管理分娩件数

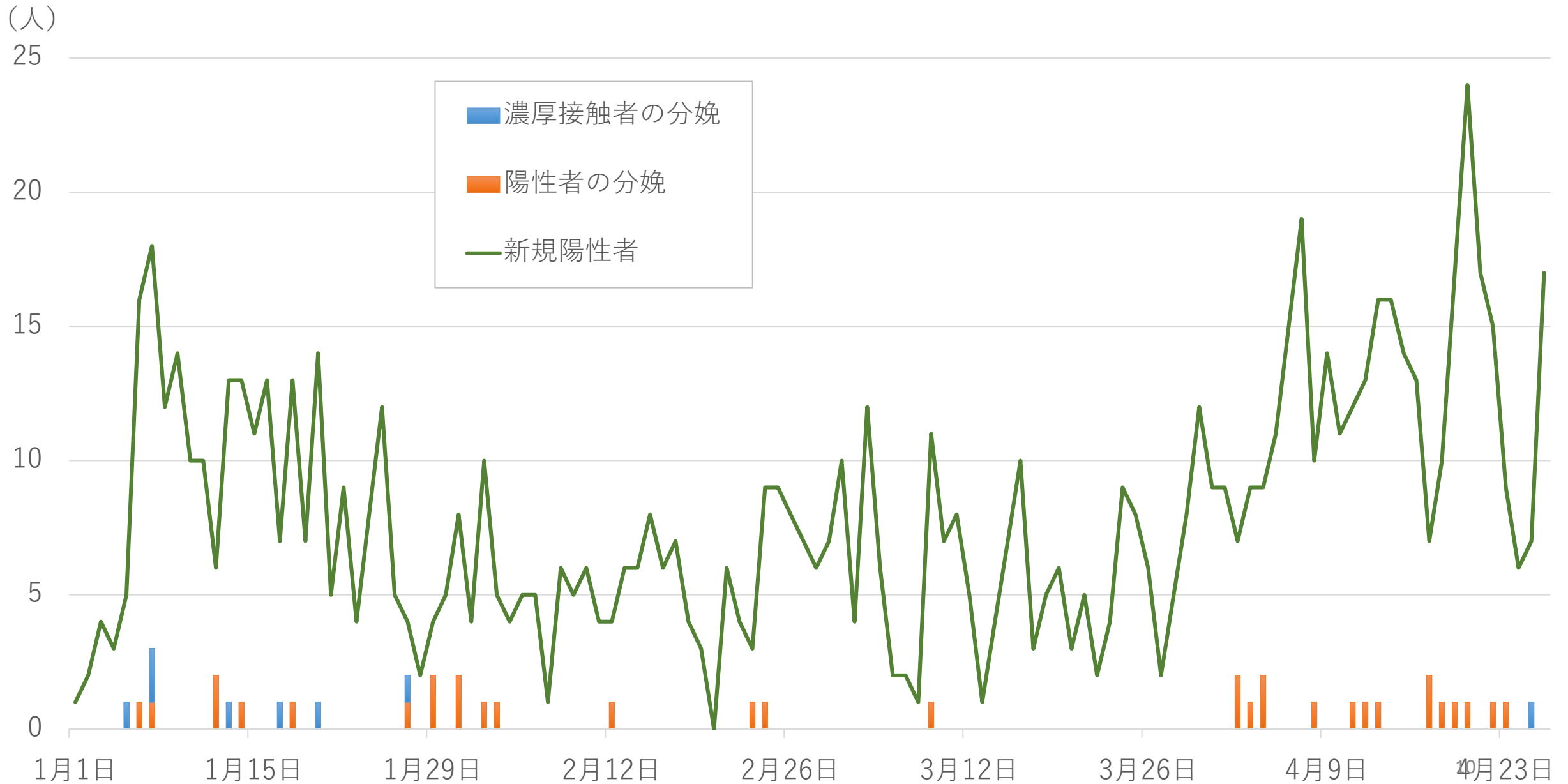


図12 社会福祉施設における施設内療養者数

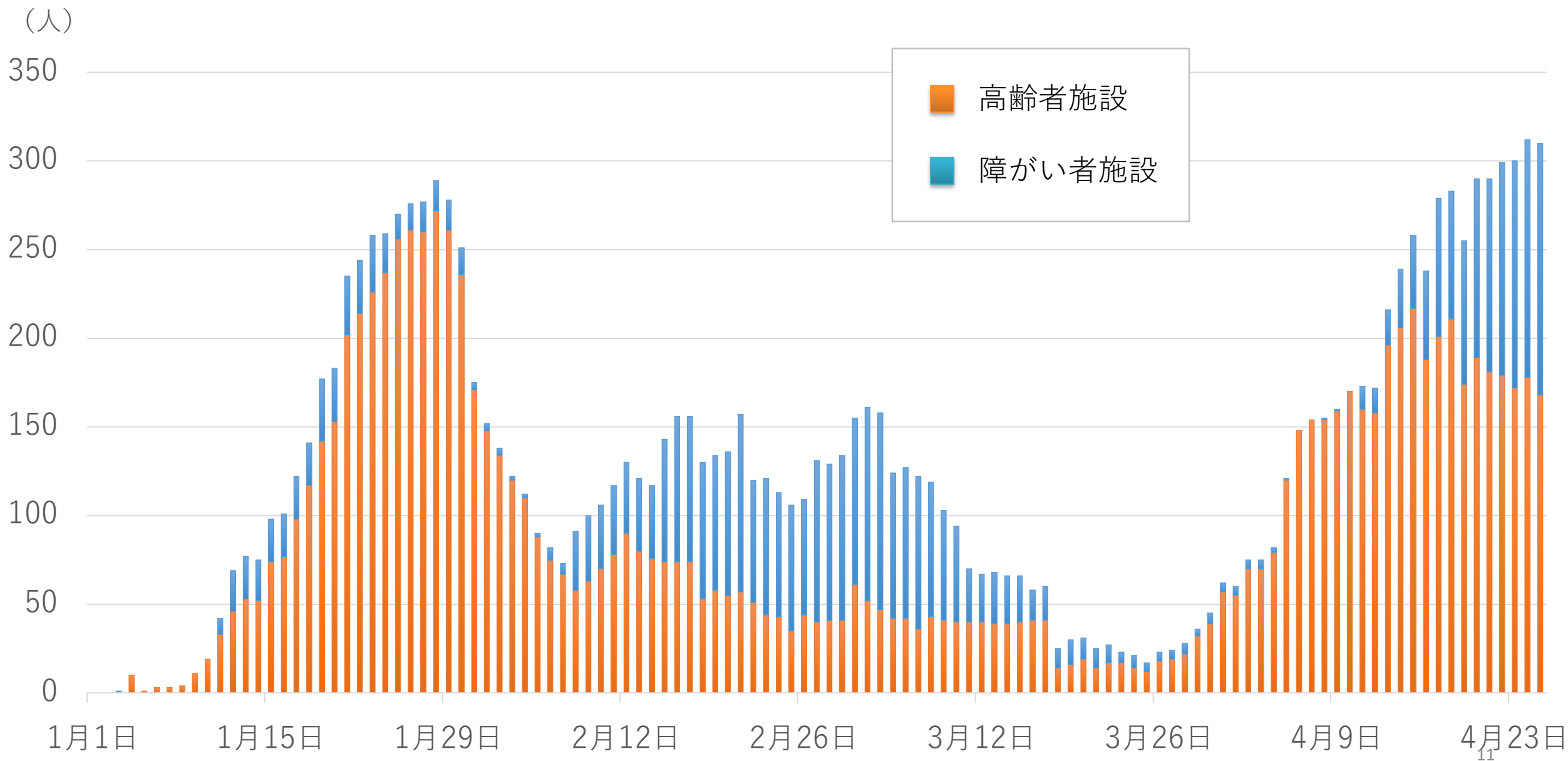


図13 沖縄県における第7波の特徴

小児における感染拡大

- ・ 小児は第6波を越えており、過去最大の流行が続いている。
- ・ 家庭内での濃厚接触者が多発するため、社会機能維持に影響。
- ・ 若者層は検査を受けておらず、捉えきれていない可能性がある。

重症者、死亡者は減少

- ・ 4月以降に診断した感染者3万人のうち、重症者・死亡者はひとケタ。
- ・ 4月以降に新規入院した感染者は660人であり、1月のほぼ半数。
- ・ 病床占有率については、第5波のようなひっ迫感を生じていない。

社会福祉施設における流行

- ・ 施設入所者の感染者数は、第6波をしのぐ勢いとなっている。
- ・ 重症化と死亡を回避するうえでは、高齢者施設が主戦場といえる。
- ・ デイサービスにおける感染が、ブラックボックス化している可能性。

図14 第7波において直面している課題

救急医療の維持

- ・ 夜間・休日を含めて風邪症状の患者が殺到する。とくに小児で増加。
- ・ 有症状者、年少者は検査所が利用できないため、検査目的で救急受診する。
- ・ 症状軽微なときに診断され（処方なし）、その後、咽頭痛が強いなどで受診。

周産期への対応

- ・ 一定以上の流行となれば、否応なく感染者と濃厚接触者が多発する。
- ・ 自宅療養者に毎日電話するが、産科医でなければ健康観察ができない。
- ・ 分娩対応できる医療機関、陽性者から出生した児を隔離する病床の確保。

医療・介護従事者の確保

- ・ 一定以上の流行となれば、否応なく感染者と濃厚接触者が多発。
- ・ 休職者が増大することで、医療と介護の機能が急速に低下。
- ・ 確保病床などハードの問題ではない。人を増やすか効率化するしかない。¹³

図15 沖縄県における前週比（7日間合計値移動平均）の推移

